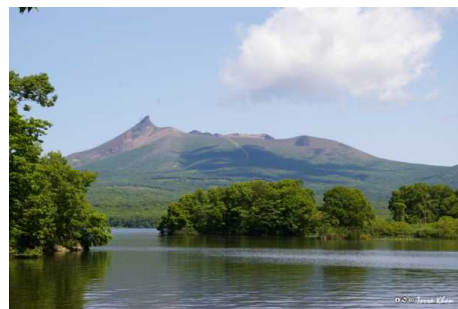




発行：北海道七飯養護学校 七飯町立七飯中学校

インクル

七飯町内の各学校では約1か月間の夏休みに入り、子どもたちは各家庭で終日過ごすことになります。学校での学びが生活に生かされて充実した夏休みになることを願っています。

インクルーシブ事業も3年目に入り、順調に各事業を推進しているところです。今号は、1学期に実施された小学校と高等学校での交流の様子、『第2回インクル推進連絡会』と『第2回インクル実行委員会』での議事内容を中心にお知らせいたします。

小学校・高等学校でも交流及び共同学習始まる

～藤城小学校3年生と七飯養護学校小学部3年生との『たなばたまつり』交流～

7月6日(月)、七飯養護学校において、藤城小学校3年生と七飯養護学校小学部3年生が『たなばたまつり』交流をしました。お迎え後、たなばたについてのお話を聞き、代表の児童がたなばた飾りをつけました。そして、両校記念撮影をして〈校長室〉〈保健室〉〈職員室〉で『ろうそくもらい』を歌い、お菓子をもらってホールに戻りました。最後に、七飯養護学校の児童から藤城小学校の児童に〈たなばた飾り〉のプレゼントがあり、閉会をしてみんなで手を振ってお別れをしました。お菓子は、少しでも美味しくいただきました。お別れの前には、自由遊びをしてみんなで楽しみ、「また会いたいね」など再会を期待する声もたくさん聞かれました。



たなばたまつりの様子



7月2日(木)七高と七養高等部とで『プランター設置セレモニー』をしました。

●七養高等部から七高ボランティア局へマリーゴールドのプランター設置依頼をしていたところですが、7月2日(木)好天のもとセレモニーを実施しました。両校自己紹介の後、七養代表生徒からマリーゴールドのプランター設置依頼がありました。受領は、七高ボランティア局の代表が行い、手入れ等の約束を交わしました。セレモニー終了後、両校代表が仲良く記念写真を撮影し、また交流の機会を積極的にもとうという意欲をもって終了しました。

両校代表生徒による記念撮影



再会を期待して握手



セレモニーの様子



七高 平石校長先生からお礼と激励



プランター設置の様子



第2回インクルーシブ推進連絡会開催

7月14日(火)に第2回の会議を開催しましたので、そのときの様子や議事等についてお知らせします。

◆議事と協議内容

〈説明〉：七飯養護学校 伏見副校長

5月21日(木)に開催された「第1回連携協議会」での山内校長(七養)からの報告(4つの柱)を中心に、以下の通り進捗状況と方針が説明されました。

項目	内容・進捗状況と方針	課題と今後の展望
①実装と体制強化	- 会議数を精選 - 新たに「インクルーシブ推進連絡会」を発足	持続可能な運営体制への移行
②モデル事業からの脱却	- 次年度以降の持続可能性を追求 - 教育委員会との連携強化	予算の確保と形骸化防止
③交流の質の向上	- 児童生徒、保護者のニーズの反映 - 町内小中学校および高等学校への交流拡大	各校のカリキュラムすり合わせ
④専門性の向上	- 中学部1～3年への交流拡大 - 支援学級の生徒と「どう共に学び高め合うか」の議論	教員および生徒の意識と行動の変容

1. 七飯中学校の実践成果：「インクルーシブ」をテーマに、生徒リーダーを中心に支援学級の生徒との関わり方を議論。生徒・教員の言動に変容が見られる。
2. 課題：インクルーシブ視点での学級・学校づくり。本事業における「成果の言語化」。
3. 共有すべき点：活動目的の再確認、高校との現実的な連携、通級指導教室のシステム化、通常教育との関連付け。他、中学校と高校との人事交流による大きな成果も共有された。

〈今年度の学校間における交流・共同学習の取り組み報告〉

- ①藤城小学校×七飯養護学校小学部「たなばたまつり」～七飯養護学校小学部 鈴木教諭
- ・3年生同士による交流で、事前に自己紹介スライドを作成してお互いに視聴し合った。
 - ・それぞれの学校で七夕飾りを事前制作した。
 - ・当日は2グループ(藤城小児童との混合)に分かれて校内を練り歩き、「ろうそくもらい(お菓子をいただく)」の活動後、自由遊びで交流をした。次回は2学期以降を予定。

藤城小側からの反響：児童からは「すごく楽しかった」との声が多数あった。「障害がある・ない」を意識することなく、自然な形で交流が行われた。



②七飯中学校×七飯養護学校中学部「体育祭インクルーシブサッカー＆オンライン交流」～七飯養護学校中学部 加藤教諭

- ・当初は体育祭当日への参加を予定していたが、悪天候による延期等の影響で見送りとなった。
 - ・代替活動（事前学習）：昼休みの10分間を活用し、Zoomによるオンライン交流を実施した。
 - ・同年代として親しみやすい言葉遣いで、自己紹介や（実施予定のサッカーの）ペア同士での順番決めなどを、生徒が主体となって話し合い決定した。
 - ・生徒たちが作成した体育祭の感想やメッセージは、七飯養護学校の公式SNSに掲載されている。
- 七中吉田教諭から：これまでは「ペアの組み方」などを教員側で決めがちだったが、今回は小さなステップながらも「生徒同士が主体的に順番を決める打ち合わせ」ができたことが大きな成果である。1年時の交流ベースがあったからこそこのステップアップとなった。

③互見授業の参加について

- ・お互いの授業を見せ合う「互見授業」は3年目を迎え、1年目の「知る（どのような生徒がいるか）」、2年目の「教育課程での繋がり（持続可能性を見据えたカリキュラムのすり合わせ）」を経て、さらに発展している。
- ・今年度の先進的な取り組み：七養の根市教諭が週に1回七飯中学校に勤務するなど、相互の人事交流・勤務体制を計画・調整中である。
- ・今後の工夫として：互いの学校の「授業参観可能期間（互見授業ウィーク）」を設定し、教職員が相互に行き来しやすい体制を構築していく。

④七飯高等学校×七飯養護学校「ボランティア交流」～七飯養護学校高等部 石川教諭

- ・高校との交流拡大の足掛かりとして、7月2日（木）昼休み時間に実施。
- ・作業学習で育てたマリーゴールドのプランターを、七飯高校へ寄贈するセレモニーを昼休みの10分間で行った。
- ・マリーゴールドのやり取りに留まらずお互いの部活動や趣味について話が盛り上がり、最後は握手を交わして再会を約束する姿が見られた。
- ・帰りの際にも、高校の校舎2階から多くの生徒が手を振って見送るなど、極めて温かく自然な交流となった。

＜合同研修会および地域参観日について＞

①合同模擬授業・研修会報告および今後の予定～七飯養護学校研究部 土屋教諭

- ・5月実施済みの研修会：七飯中学校の越智主幹教諭を講師に招き、中1の総合的な学習の時間「インクルーシブ学習」の事前学習実践（企業連携での課題解決プロトタイプ制作等）について30分間の講話を受けた。
- ・交流学習の「前段階」で中学生たちがどれほど真剣にインクルーシブについて考えているかが可視化され、実際の出会いの場における適切な対応行動に繋がっていることが理解できた。
- ・今後の研修予定：**7月27日（月）**：居住他校交流等に関する事例研修会（今金小および町教委の定期的取り組み、参加申し込み受付中）。
8月26日（水）：合同研修会（場所：七飯町文化センター 講師：北海道教育大学函館校教授 杉本任士氏）。

②七飯養護学校「地域参観日」の実施について～七飯養護学校中学部 小野教諭

- ・目的：地域住民、関係機関、他校の教職員に授業を参観してもらい、学校活動への理解と啓発を図る（今年度からの新規取り組み）。
- ・日程：① 9月8日（火）9:40～11:30 ② 9月29日（火）9:40～11:30（※いずれかの日程で参加可能）
- ・対象：七飯町内の方、放課後等デイサービス職員、各校教職員、七養教育活動に興味のある方。
- ・詳細情報：7月15日に学校公式ウェブサイトに掲載予定。

③コミュニティスクール（CS）実証プログラム「しゃべり場」～七飯養護学校 水口教諭

- ・義務教育学校大沼学園（2020年設立）の9年生と地域住民による交流。キャリア教育の一環として実施（12月に発表会予定）。
- ・地域住民と生徒が対等に関わる場として定着しており、当日は「プロフィールカード」を用いたアイスブレイクの後、後半は「フューチャーデザイン（将来世代になりきって、20～50年後の大沼の望ましい未来を描き、今すべきことを逆算するワーク）」を実施。
- ・教育委員会アドバイザーからは「コミュニティスクールは、単なる学校と地域の連携だけでなく、地域創生を担う仕組みである」との総括があり、インクルーシブ推進における対等な関係づくりの好事例となった。

＜教育委員会からの指導助言・情報提供＞

○中埜渡指導主事

「講習や学校種の枠組みを超えた連携が始まっていることを、素敵な写真とともに聞きできて大変嬉しく思う。カリキュラムや児童生徒の状況が異なるのは当然。その違いの中で、今回の七夕交流や高校との交流のように、自然に声を掛け合い、1回きりで終わらせず継続していくことが何より重要である。そこから生まれる新しい教育課程があるはず。教育委員会としても、教員同士の交流を含め、より活動がしやすくなるよう後押ししていきたい。」

○榎山指導主事（「夢プロ（夢のあるまち七飯町プロジェクト）」の紹介）

「今年で5回目を迎える『夢プロ』は、中学生・高校生が総合的な学習の時間等を利用し、町の未来像について町長へ直接プレゼン・提言を行う事業。毎年、非常に充実したアイディアが提案されている。今年の12月中旬に開催されるこの『夢プロ』に、七飯養護学校の子供たちもぜひ参加できないかと校長先生と相談している。中高生と一緒にプレゼンをするのが難しい場合でも、例えば『技術製品や作品の展示・説明ブースを設ける』『文化センターでの作品販売会のコマーシャルをチラシ等で配る』といった形で参加・アピールできる。今後、詳細を詰めてぜひ実現に漕ぎ着けたい。」

＜グループ意見交流のまとめ＞

【小学校グループ】

- ・「関わらなければいけないから行く」ではなく、自然な場所ですばったり出会い、自由な交流から「楽しい」「もっと関わりたい」という主体的な気持ちが生まれることが重要だ。
- ・教育課程にガチガチに組み込むと日程等の調整が難しいため、より自由でフットワークの軽い関わりを増やしたい。
- ・教育委員会への要望：調整や手続きがスムーズに行えるようなバックアップ体制の整備を強く望む。



小学校グループ 協議の様子

【中・高グループ】

- ・授業・カリキュラム（総合的な学習、各教科、部活動等）へのインクルーシブな視点の落とし込みをどう体系化するか。
- ・お互いの学校の長期休み（夏・冬休み）のズレを生かし、その期間を利用して共同作業学習や体験学習を行うアイデアが出された。
- ・体育祭での「インクル・サッカー」は、通常学級の生徒が自身の得意・不得意（距離等）を考慮して自主的に参加方法を選べる仕組みがとてよかった。
- ・「夢プロ」や11月の「製品販売会」との連携：七飯養護学校の生徒による販売会にいたるプロセスの紹介や、美術部・写真部と共同出展する。



中・高グループ 協議の様子

七飯養護学校生徒の作品をアピールするためのポップ（POP）を高校生が作成するなど、具体的な協働活動の可能性を探る。

昼休みなどを活用した、部活動紹介や推し活（メッセージカードのやり取りなど）を通じた手軽な交流を提案する。

第2回インクル実行委員会開催

7月24日（金）に七飯養護学校で開催された『第2回インクル実行委員会』の議事内容について報告いたします。

【交流及び共同学習グループ】

I. 体育（3年生 体力テスト交流）

- 実施時期・場所：9月／七飯中の3年生体育授業（1時間枠）
- 対象：選抜メンバーおよび希望者実施内容：交流を主目的とするため、走力系（50m走・シャトルラン等）は除外し、測定・交流がしやすい種目（反復横とび、握力など）を中心に実施する。

II. インクルーシブ学習（総合的な学習の時間）

- 実施時期：9月
- 内容：七飯中の特別支援学級で「インクルーシブとは何か」をテーマとした公開授業を実施。日程確定後に参観案内を送付。

III. 3年生：学校祭・手話歌交流

- 日時：9月18日（金）10:20頃～
- 発表曲：『ぜんぶ』（作詞：さくらももこ）
- 役割・進行・配置：
 - ・指揮・伴奏：七飯中の生徒が担当。ミス防止のため楽譜を置いて演奏。
 - ・手話手本役（演示）：ステージ上の生徒が見本にできるよう、鏡役となる手話係（1～2名）を七飯中から選出。
 - ・ステージ配置：ソプラノ等のパート別に配置し、パートナー（ペアの生徒）が誘導・サポートを行う。
 - ・事前交流：夏休み明けにお互いの練習動画を送受信し、メッセージやアドバイスのやり取りを行う。
 - ・観覧席：七飯中の保護者席等の優先順位・立ち見リスク等を考慮し、確保する座席数を調整。

IV. 1年生：体育理論 — ボッチャ・モルック交流

- 事前オンライン交流：日程を9月4日（金）から9月11日（金）に変更（Zoom接続時間は30分間に調整）。
- 当日実施：聴覚過敏等に配慮し、体育館で実施。準備運動にはラジオ体操を採用。

V. 2年生：『総合・クリスマス屋台広場（12月11日（金））』『美術：けっちゃん面づくり（2月9日（火））』

- 内容：インクルーシブサッカーの中止に伴い、代替・縮小案（ミニサッカーフォーラム等）を検討。
- 企画：七飯中側の準備だけに頼らず、七養の生徒も美術の時間を活用して「紙コップタワー」「紙コップストラックアウト」などの出し物の準備や、当日の運営・片付けに参加できるよう計画。
- ※『けっちゃん面づくり』については、予定通り実施する。詳細は後日決定する。

【体制構築グループ】

●合同研修

次年度以降も特別支援教育に関する研修を年1回以上実施できるよう、年度初めに日程を確定・明確化する。

●人材バンク（人材マーケット）の活用

4月当初に各校へ資料を周知し、授業見学や講師派遣などの実働を増やしていく。
今後、七飯中学校区内の各学校に広げていきたい。

●互見授業（学校相互に授業を見合う）の周知

授業の週予定を交流して相互訪問を可能にしたり、参観日や合同研修の準備時間等の授業が空いている時間も活用できるよう、事業の周知を徹底する。

●地域参観日

9月に2回実施予定（9/8、9/29）。改めて各校へ参加者を募集する。

●次年度のインクルーシブ事業の自走に向けて

インクルーシブ推進連絡会の事務局（窓口）を現状から町教委に移行して事業の自走を円滑に進めていくのはどうか。
それに伴って、各学校でも校務分掌の中に〈インクルーシブ担当〉部署を設けて統一感を持たせていき、町教委との連携を図っていくのはどうか。

令和8年度1学期の学校教育活動で、児童生徒たちに「インクルーシブ」を意識した交流や学習を行ってきました。これは、過去2年間の本事業の積み重ねてきた財産が更に発展・深化してきたものと思われます。関わってくださった先生方はもちろん、支えていただいている教育委員会、地域、保護者の皆様のお陰と感謝いたします。

2学期からも引き続き、交流や共同学習、体制構築で校種の壁を越えて、事業が推進されていきます。町内での「インクルーシブ教育」の定着発展に向けて、皆様の今後ますますの御理解と御支援をお願いいたします。
（カリキュラムマネージャー三井徳久）

